

白

白は、(白)。親指の象形で、“親指”が本義の字。“しろい”は仮借とされています。しかし、太陽の象形による指事字とも見ることができます。太陽光線は“しろ”ですので、親指の**白**とは別に作られたことも考えられます。白日、白光。音はハク。

百は、一と白との会意形声字。昔は、“親指一本で“ひゃく”の数を表わしたことによります。「百」は“一^{いつ}白^{びやく}”(一百)という字です。音は白^{ハク}がなまってヒャク。

伯は、親指の意味の白^{ハク}と人との会意形声字で、“大人”という意味の字。兄弟の順序を「伯・仲・叔・季」で表わしますが、**伯**は一番年上の兄の称です。「伯仲」は、長兄と次兄の意味で、両者の差が少ないところから、優劣のつけがたい意味に使われています。

舶は、“大船”という意味の会意形声字です。音は白^{ハク}。海洋を航行する汽船のことです。「舶来」は、外国から汽船で運んで来るという意味の言葉です。

帛は、“白い布”という意味の会意形声字ですが、“白い厚手の絹”で、礼物として贈答用に用いられたものです。幣帛。昔、紙のない時代、竹簡と共にこの帛が紙の代りに用いられましたので、記録文書を「竹帛」と言いました。「功名を竹帛に垂る」とは、名を歴史に留めるという意味です。

粕は、酒を醸造して、清酒をとったあとに残る“白い米”つまり“酒かす”のことです。白^{ハク}と米との会意形声字です。

泊は、海水が“白く見える所”という意味の字で、海の浅い所を表わした字です。「碇泊」は、浅い所で碇^{いかり}を下して“とまる”こと。転じて、“宿にとまる”意味にも使われるようになりました。宿泊。

拍は、パンという音を表わす白と手との形声字で、“手を打つ”という意味を表わしています。拍手。